

「和解の務め」音信（17－3号）

Ministry of Reconciliation in South Africa

これらのことはすべて、神から出ているのです。
神はキリストによって私たちをご自分と和解させ、
また和解の務めを私たちに与えてくださいました

（Ⅱコリント 5:1）



宣教同労者の皆様に平安のご挨拶を申し上げます。今、南アフリカは冬の季節に入りました。夜、朝、結構寒くて暖房を付けておかないと過ごしにくい日々が続いております。といっても、水が凍るとか雪が降るとかといった寒さではありません。昼になると初春のような温かい日差しが照らしてきます。

ステレンボシュ改革教会の家庭集会

前回（17－2号）申し上げましたように、今度はこちらの家庭集会と小グループの集いについてご報告いたします。ステレンボシュ改革教会は登録信徒約300人で毎週主日、大体



100人程度、礼拝に参加している、南アフリカ改革教会のなかでは中級規模の教会です。2017年度教会要覧によると、壮年たちのために12区域（wyk）、9小グループ（klein groep）があり、これと別に、青年たち及び大学生たちのために12小グループが設けられております。先日、ある区域の集いに招かれ、行ってみました。その区域の長老の家で夫婦らと一人暮らしの人たち約12人が集まりました。リビング・ルームが広いので十分そのくらいの人々が集うことができました。その長老は丁度、去年12月初旬ごろ東京を尋ねてきた大学教授で、東京の街の様子などをカメラで撮って来ました。それでその日は、その映像を見ることと私の証しを聞くことで時間を使いました。その後、茶菓を取りながら各個人の近況報告、そして祈りの時間、あっという間に2時間が流れました。その後、次回の集いの日時と場所を決めて、解散という形でした。言えば、交わり中心の集いだったと思います。（大学を卒業した）青年たちと大学在学中の学生たちは大体、教会で時間を異にして集まるそうです。彼らはそれを聖書研究だと言っておりました。聖書研究といっても牧師か青年指導者が聖書を教える形ではなく、

聖書の教えを互いに分かち合う形だということです。

マダガスカル訪問

5月8日（月）から12日（金）までパウロ宣教会のアフリカ圏域大会がマダガスカルにて行われ、私たち夫婦も参加しました。ケープタウンからヨハネスブルク、ヨハネスブルクからマダガスカルまで半日掛かる航空旅行でした。アフリカ各地から集まった70人程度の宣教師たち、また30ぐらいの子供たち、少なくない人数が一緒に集い、研修と交わりの時を持ちました。子供たちは別の場所で集まって、プログラムに参加しました。今度、特に強調された研修の内容は「修道士のライフスタイル」でした。



修道士はローマ・カトリック教会の全有物ではなく、キリスト教会の初期からあった最も古い伝統であり、遺産であること、中世末期の墮落した修道院と救済論が問題であって、元々修道士制度はキリスト教会の敬虔、宣教、神学の発展に少なくない貢献をしたこと、結論的に宣教師は修道士のようなライフスタイルを営むべきであることを強調されました。福音主義の立場に立って、修道院のように信仰訓練と祈り、宣教に臨む団体が近来多く生じているとの情報も得ました。本人もそれに関心を持ち、研究していく心構えをして帰ってまいりました。帰り道に以前過ごしたことのある、ポチェフストロにも立ち寄りました。

最後に、宣教同労者皆様のご健康と平安をお祈りし、いつも覚えてお祈りと尊いご支援をしてくださることに心よりお礼を申し上げたいと思います。シャローム！

南アフリカ・ステレンボシュにて
金煥・貞玉より